

## R28a VERA による星形成領域 S269 の高精度位置天文観測

本間 希樹、小林 秀行、川口 則之、柴田 克典、宮地 竹史、武士俣 健、廣田 朋也、寺家 孝明、官谷 幸利、小山 友明、倉山 智春、蒲原 龍一、須田 浩志、崔 崙景、吳 忠植、真鍋 盛二、亀谷 収、田村 良明、堀合 幸次、久慈 清助、佐藤 克久、岩館 健三郎、酒井 俐（国立天文台 VERA 観測所）、面高 俊宏、今井 裕、中川 亜紀治、猪俣 則智、貴島 政親、空 佳澄、山下一 芳（鹿児島大）他 VERA グループ

VERA を用いて星形成領域 S269 の水メーザーを位置天文観測したので、その結果について報告する。

S269 は反銀河中心方向にある大質量星形成領域で、距離は 4 kpc と推定されている。S269 の水メーザーは 200 Jy と明るく、離角 0.7 度のところに明るい系外参照電波源 J0613+1306（約 400 mJy）が存在しており、VERA の 2 ビーム観測ターゲットとして条件の良い天体である。VERA では 2004 年 11 月から 1 ~ 2 ヶ月に一度の頻度で S269 ペアを観測している。このうち 2005 年 5 月までのデータを解析し、水メーザースポットの位置天文計測を行った結果、メーザーの固有運動の検出に成功した。また、4 エポックながら、加速度的な成分も見えており、この成分は年周視差楕円の一部分としても矛盾なく説明できる。

今回の講演では、2005 年 5 月以降の観測も併せてこれまでの観測結果について報告する。また、VERA の位置天文精度および年周視差検出の可能性についても議論し、そこから示唆される S269 の距離についても紹介する。